令和6年9月開催松野町農業委員会定例総会会議録

1. 開催の日時及び場所

日 時 令和6年9月11日（水） 13時30分より
場 所 松野町コミュニティセンター2階 貴賓室

2. 会議構成員（農業委員）現在総数 13名

出席：12名 欠席：1名

3. 農業委員出席者氏名

役職名	議席番号	担当地区	氏 名	出欠
会長	1	上家地	村田 和宏	出席
副会長	2	—	矢野 千津	出席
	3	蕨 生	金谷 純一	出席
	4	富 岡	加賀田幸二	出席
	5	吉 野	太田 善英	出席
	6	—	山崎 匡	出席
	7	豊岡前	毛利 彰男	出席
	8	松 丸	山口 賢三	出席
	9	目 黒	河野 和平	出席
	10	豊岡後	森口 泰	欠席
	11	延野々	石田 芳久	出席
	12	奥野川	滝口 博臣	出席
	13	—	松比良八重子	出席

その他出席者

農地利用最適化推進委員出席者

区域	氏 名	出欠
松丸地区、延野々地区、 豊岡後地区、豊岡前地区	綱崎 幸紀	出席
	松田 荘一	出席
富岡地区、上家地地区、目黒地区	井上 優二	出席
	橋田 忠弘	出席
吉野地区、蕨生地区、奥野川地区	金谷 恒夫	出席
	滝本 音次	出席

農業委員会事務局

農業委員会事務局長 小西 亨
農業委員会事務局次長 中平 大介
農業委員会事務局主査 音地 絢太

4. 議長選出他

議長 村田 和宏
会議録署名委員 太田 善英
山崎 匡

会議書記 音地 絢太

5. 閉会の日時

令和6年9月11日（水） 14時10分

6. 議事日程

議案第1号 農地法第5条第1項の規定による許可申請について

7. 会議の概要

小西事務局長

ただ今から定例の農業委員会の総会を始めたいと思います、会長のほうからご挨拶をお願いします。

村田会長

町内もいろいろと稲刈りも終わりました、やれやれという人が多いんじゃないか思います、またこれから他のことでいろいろと忙しことなるんやけど、今年は米価のほうもかなり上がっておりまして、テレビでいろいろと報道されとるように、農家のほうもかなり収入があったんじゃないか思います、その代わり材料費が高騰しとるから同じかもわかりませんが、少しは今年は楽になれるんじゃないかと考えております、いろいろと農業もしんどいのもありますが、そこそこやりながらやっていったらどうにかやるんじゃないかと思っております、こないだテレビで見よる

と、来年の値段がどうかというよりも、作る人が来年また減るんじゃないかなとか、金額が上がったて、高齢化でどんどんどんどん減ってしまって、若い人は農業から離れとるし、農業に戻るいう事もあんまりしないし、一人の方がけっこうな面積をするような事になるんじゃないかと、あまりにもこう、町内でもいろいろな何人かが大きな農業いう感じでやられとるんけど、反面荒らしたような形で作られる方が多いから私のほうではどうかと思うんですけど、少しでも荒らさんような農業をしていただく方に集約をしていただいたりしたら、一番いいんじゃないか思とります、今日はいろんな案件があると思えますけど、よろしくお願ひ致します。

引き続きでなんですけど、議事録の署名委員の指名なんですけど、5番の太田委員さん、6番の山崎委員さんでお願いを致します。

4番の報告事項にはります、事務局のほうでありましたら。

音地主査

その他でまとめてでお願い致します。

村田会長

その他のほうでお願い致します。

さっそく議事のほうに入りたいと思います、議案第1号農地法第5条第1項の規定による許可申請についてを議題として、事務局のほうで説明をお願いします。

音地主査

資料4ページ目をご覧ください、農地法第5条第1項の規定による許可申請についてでございます、申請地は延野々〇〇〇番、〇〇〇番、〇〇〇番、地目は上記2筆は田、〇〇〇番は畑となっております、面積は3筆合計で696㎡となっております、現在の利用状況、現状はすでに事務所や倉庫が建っております、宅地や雑種地等としてすでに利用されて

いるようになります、転用後の利用としましては事務所の予定となっております、図につきましては資料5ページ目をご覧ください、続きまして申請者になります、今回は使用貸借による設定となっております、借受人が北宇和郡松野町大字延野々〇〇〇番地株式会社〇〇〇、貸渡人が北宇和郡松野町大字延野々〇〇〇番地〇〇〇さんとなっております、転用の事由と致しましては、借受人は建設揚重業を営んでおりまして、規模拡大により事務所、資材置き場、倉庫などが不足している状況であることから申請地に施設を設置したいとの事で、貸渡人は借受人の要請を受け入れ無償で貸渡すこととなっております、転用申請農地等の詳細でございますが、当該農地は農業公共投資の対象となっていない小集団の生産力の低い未整備農地となっております、第2種農地に該当致します、また施工の際には敷地内をコンクリート構造物で囲み付近の農地に影響がでないようにするとのことで、万が一影響が出た際は申請人の責任で迅速に対応するとのことです、またこちらの案件につきましては、違反転用の事案となっております、申請者から始末書の提出がなされていると共に先日の農地パトロールの際に延野々の委員さんと現地確認を実施しておりまして、現地については問題ないことを確認しております、説明は以上になります、ご審議のほどよろしくお願い致します。

村田会長

説明が終わりましたけど、違反転用いうことで延野々の委員さんも確認されとるという事なんですけれど、何か質問等ございましたら。

ないでしょうか、もし延野々の委員さんで補足がありましたら、ないでしょうか。

ないようですので、申請のとおり許可でよろしいでしょうか。

(会場)

※会場より「はい」の声あり。

村田会長

これは会社に貸すいうかたちで、以上で議事のほうは終わりたいと思います、次に6番のその他に入りたいと思います、事務局のほうでありましたら、よろしくをお願いします。

中平事務次長

本日お配りしております資料1の提言書関係というのをご覧いただけたらと思います、提言書につきましては8月の委員会の折に委員の皆様からご意見をいただいております、その内容を先月の委員会に概要ということで項目だけまとめてお示しをさせていただいておりましたが、今回7項目に分けてまして詳細なものを提言書としてまとめておりますので、本日説明をさせていただきます、ご意見等を踏まえてまた来月の委員会等で修正等をさせていただいたらと思います。

それではまず1ページ目になります、1項目目が担い手の確保・育成、農作業支援ということで農業に限らず、担い手の確保育成が最重要課題である昨今、この問題は東京一極集中に端を発して、都市部以外の自治体が限られた担い手を奪い合う構図となっています、そのような中都市部からの移住者を受け入れる方策として、地域おこし協力隊制度があり、松野町としても基幹産業である農林業部門を中心に、募集活動を積極的に行うことで、定期的な受け入れが出来ていると認識をしております、しかしながら地域おこし協力隊の定着率は低迷しており、地域おこし協力隊制度の趣旨をみたした現状にはなっていない現状であると思われ、また高齢化の進展に伴い農業の継続が困難になっている農家が存在します、株式会社松野町農林公社のアグリレスキュー事業を活用することも選択肢としてありますが、事業規模が大きくなると受託にも限界があると考えます、協力隊を中心とした担い手の確保・育成、農作業の支援のため下記のとおり提言をしますという事で6項目ここでは

提言を出しております。

一つ目が協力隊の増強の関係なんですが、多様な担い手確保のための各種相談会やフェアへの積極的な参画。

二番目がお試し移住とか、協力隊の関係で事前の視察経費、そういったものの拡充が出来ないかということで、移住定住を促すための新たな支援策及び既存支援策の拡充の検討。

三番目としてやはり協力隊というのは地域との関りがかなり重要になります、ということで移住定住を実現するための地域コミュニティの機運醸成。

四つ目が協力隊卒業後に生計を立てることが出来るようになるというのが大事だと思っております、その観点から生活基盤整備のための関係機関と連携した支援体制の強化。

五番目が利用権設定をしている農地の管理、特に草刈り等が出来てないというところもありますので、利用権設定等により農地を維持管理している大規模農家へのアグリレスキュー事業利用の支援。

六つ目が高齢化の進展によりまして収穫等の作業が困難になっているという状況がございます、それを踏まえまして農地維持管理のための有償ボランティア制度の創設とこういったものを掲げさせていただいております。

続いて二項目目です、農作物の減収及び離農対策ということで、令和6年度はカメムシの大量発生、イノシシの増加、夏の高温等農業を取り巻く環境は例年になく厳しさを増しております、その結果として生産量は低下し、農家収入も減少傾向となり、高齢化も相まって農業経営の継続が危ぶまれ、耕作放棄地の増加も懸念されております、農業経営の継続のためには安定した収入、労働力の確保が必要不可欠であり、そのためにも農家支援の施策として下記のとおり提言します、ということで2

ページ目をお開き下さい、ここでは4項目上げさせていただいております、まず一つ目なんですけれども、既存の補助事業の拡充という事で、カメムシの防虫ネット等対策はできないかという事で、害虫対策のための実証試験及び農家普及のための補助制度の検討。

二番目が有害鳥獣の関係なんです、防護柵等の既存補助による自己防衛ももちろんの事なんですけれども、有害鳥獣から作物を守るための捕獲の強化を上げております。

三項目目が捕獲活動についてなんですけれども、こちらのほうは多くの労力がかかります、特に狩猟期の中型獣につきましては報奨金が出ないということで、猟友会の方狩猟者の方もちょっと手が出しにくい状況になっております、それを補うために捕獲活動の中心となるNPO法人森の息吹、猟友会に対するさらなる支援。

四番目が既存の収入保険とか共済、貸付等の既存の制度はございますが異常気象等による減少に対応するためのセーフティーネットの周知徹底を上げさせていただいております。

続いて三項目目です、農業所得向上支援という事で、農業分野においては近年の肥料・燃料・資材等の高騰により厳しい経営が続いております、様々なものが価格高騰する中、農作物は経営の価格転嫁が難しく、農業所得は減少をしております、農業所得の向上のためには新たな販路の開拓、栽培方法による差別化、付加価値を高める取り組みが必要ありまして、農業所得向上に向けた支援として下記のとおり提言を致します、ここでは三項目ございます。

まず一つ目が町内の農産物の流通の拠点となりますかごもり市場の魅力向上と、ECサイトの有効活用。

二番目が安心安全な農作物を求める消費者のために対応する消費者を意識した栽培方法の実情と販促活動への支援。

三番目は松野町の豊かな自然、地理的条件、特に棚田で作られたお米は歴史的環境的にも価値の高いものであります、そうした自然環境を生かして生産された農作物の付加価値向上とブランド化支援をあげさせていただきます。

四番目が遊休農地解消支援です、農家の高齢化が進展する中、町内各地で遊休農地が増えていっていると感じています、特に農地開発事業や補助整備事業により統制された優良農地は、今を生きる私たちが守るべき財産であり、適切な維持管理が必要であります、すべての農地を守ることは難しいと考えますが、優良農地を守ると共にそれ以外の農地についても適切な維持管理を行う必要があることから下記のとおり提言を致します、ここでは三項目ございます。

一つ目が本町では中山間・多面に取り組んでいる集落が多く存在をしておりまして、日本型直接支払い制度を活用した集落での適切な維持管理の指導。

二番目が遊休農地再生のための支援という事であげさせていただきます。

三番目がこれまで人農地プランにおいて地域での話し合いが行われてきました、農地維持のためには計画に基づいた取り組みが必要ということで、今の人・農地プラン、今後地域計画に代わりますが、による農地維持への取組をあげさせていただきます。

続いて資料の3ページになります、五項目目です、農地・農業用施設維持管理支援ということで、令和四年度に創設されました農業農産整備事業補助金につきましては、これまで地域として取り組むことが困難でありました、農業用施設の改修等農業活動の維持継続のために必要不可欠な事業を実施することができました、各部落二年に一回、事業費百万円を上限に事業が実施できますが、各部落事業要望個所が多くまた事業規

模が大きな個所も存在します、高齢化が進展する中、現在の補助事業では部落内での優先順位が低い箇所につきましては、順番が回って来るのに年数がかかり、そのことにより離農する農家が増えることも懸念されることから、農地維持・離農防止の観点から下記のとおり提言をいたします、(1)、(2)につきましては農業農村整備事業補助金の拡充の関係になります、こちらは地元から出ている要望に対して集中的に取り組むために提言をさせていただいております、(3)農業農村整備事業補助金制度の長期的な継続ということで、こちらのほう90パーセントの補助ということで、かなり効率的な補助になっております、地元で直接工事が発注できるということで、使い勝手のいい制度となっております、こういった制度を長期的に継続をしていただきたいということで提言をさせていただいております。

続いて六項目目です、補助事業の要件緩和と迅速化、こちらは認定農業者等が申請する機械・施設整備等につきまして、補助事業の性質上入札等の手続きにより整備までに長期間を要する状況となっております、機械・施設の整備につきましては適期に行うことでその効用が発揮されるものであるため、事業運用につきまして下記のとおり提言を致します、こちらは国・県の補助事業について要件だったり、手続きの簡素化、早期着手・執行の関係になりますので県への働きかけを強化ということで提言をさせていただいております。

最後に七項目目です、農産物六次化取組支援、農産物の六次化は農産物の有効利用、農家所得の向上につながると共に松野町の新たな特産品の創設にもつながります、町内では伝統ある雷漬けが傳承されておりますが、食品を製造販売する際には食品衛生法の適用を受け、雷漬けの場合は漬物製造業の許可を受けるため施設の改修を行ったと聞いております、許可をうけるというハードルが高いことが六次化進展の足かせの

要因の一つと考えられるため、六次化への取組支援として下記のように提言しますということで最後のページになります。

まずは町内でどのような要望があるかということで、一番に六次化事業のニーズの把握、二番目としましては特産品創出のための補助事業の拡充ということで、こちらは先ほど雷漬けの時は漬物業の関係で農林の関係ではあったんですけども、特産品の創出という事で商工部門との連携も視野に入れた提言となっております。

以上がこれまでの協議内容をまとめたものになります、これまでの協議の中で漏れてるものがあったりとか、結構細かい部分まで書いとるところがありますので、ここはいらないんじゃないかとか、また別の提言がありましたらご意見等いただけたらと思います、よろしくお願い致します。

村田会長

今詳しく説明がありましたけど、パッと読んだだけでは把握できんようなところもあるかもしれませんけど、これは除けたほうがいいのか、こういう事も付け加えたほうがいいのかというのがありましたら、どなたでもええんですが言ってもろたら。

山崎委員

新たな内容いう感じでもないんですが、ITとか最先端のスマート農業的なものの試験的に、鳥獣害対策にも活用できると思うんです、そういうものを主体的に何処かやってみたりとか、予算の都合があるんで試験的にどんな費用対効果があるんか、どれだけ労働力が削減できたかとか、そういうのを含めて組み込めたら有難いかなと思ってます。

小西事務局長

項目どこに突っ込んだらええかは後の最終的な書きぶりの調整はもう一回しようと思うんで、そこは町だけに振り撒いても技術屋がおらん

ので、県の指導機関とかその辺も巻き込んで、外部の団体もあるんで、普及事業推進協議会とか、そこら辺ともうまく連携してスマート農業も言われだしてから時間もたってきたし、山崎委員さんは専門かなと、技術が進んだる部分がまだ松野にあんまり入って無い部分とか分かった上で言われよると思うんで、それをやれる人がとか大型の農家だけがやったらいい話でもないし、かといって高い機械を導入するのを進めるのがいいわけでもないんで、その辺を実証をしつつ利便性が上がるものを選んでいく、地域に何がふさわしいかというのは大事な事かなと思うので、ちょっとその辺は有害獣の対応のところの大型の施設入れる話もこの前議会で一般質問してもろて、答弁少し入れましたけど価格が高いたか大型になってくると成果をしっかりと実証して進めないとよかったようなんでやって下さいねだけでは普及もしないし、農家も効果があるか無いか分からんと導入に踏み切れないと思うところがあると思うんで、そういう部分は技術屋さんと連携して少し目に見える形で成果を返すようにお願いをしてますよという話もしたんですが、それと関連付けて基幹産業である農業については、やっていくように書いたらいいかなと、一部そういうお金使こうて公社のキュウリのハウスのところに小さい機械とか、自動の巻き上げ機とか入れて成果をみよるので、それをもう少しいろいろと発展させていくとか、応用きかしていくとか、その辺関連付けてあとちょっと書かしてもろたらなと思います。

村田会長

ほかないですか、どんなことでも、ちょっと思いついたようなこと。

太田委員

最初のページの六番目農地維持管理のための有償ボランティア制度の創設というのは、公社以外の基幹系の組織を作るということですか、よくわからんのやけど。

小西事務局長　　すでにうちで、援農ボランティア制度とか、今年創生課が窓口になってやりよる、「おてつ旅」　旅しながらアルバイトしていく全国組織があるんですけど、それとか農協に今年窓口になってやらした桃の袋掛けの作業ボランティア、これはみかんアルバイト制度をもう少し鬼北側にももっていこうということであの会社にまるまる頼んで、アルバイトを探して袋掛けとか収穫の手のいるときに試験的にやったんですけど、それを拡充していこうというような意味あいです、公社のアグリスも確かにあるんですけど、公社はパンパンなんでそれを中身によって分散できんかないうのを考えててそういう意味合いで書いてます。

太田委員　　公社以外の国の事業とか。

小西事務局長　　この前認定農業者の役員会の時にさっきの「おてつ旅」の仕組みを説明させてもろて、回覧も一応回したんで見た方もあるかもしれませんが、ああいうのを出来るだけ使って、うちも制度化と予算を若干持つとるんで、アルバイト代を出さないけんことは間違いなんですけど、ただアルバイト来て言うただけではアルバイトが集まらんので、呼びかける仕組みとか、アゴアシ代とかをこの制度使ってもろたらこっちはうちから助成するんで、人をなるべく集めやすい状況を作るんで、正規の賃金だけを払ってもらえませんか、いう仕組みを作る、自分でアルバイト探そう思たらなかなか手が集まらんので、そこをなるべく集まり易くして、農家負担にはならんようにやるっていうことを考えてます。

村田会長　　今のやつで去年の柚子採りの時にうちに話がありまして、似たようなの、行政のほうから泊まるお金と、食事のお金は出します、その代わり

その時は女の人らやったんやけど、その時は来てもろてやったいうあれがあるんやけど、あれが全国組織になったということ。

小西事務局長

去年〇〇〇さんとか〇〇〇さんどこにお願いしたのは、うちが試しに乗った、ほんとの最初の小っちゃい仕組みのボランティア制度やったんですけど、それももちろん置いといて、もうちょっと全国組織でいろんなところから人が集まって来るのにも乗っかって、今窓口をいろんな選択肢を広げよるとこなんですよ、ここだけじゃ人が集まって来ずらいけどそれでもいい人は来るし、もうちょっと全国いろんなところがそこに登録して、北海道のアルバイトもあれば九州のアルバイトもある、四国もあつたら四国に行ってやってみたい人がそこに申込をすると、いろんな人が旅しながらアルバイトして、まあ言うたらアルバイト代稼いじゃ旅費にして転々と旅行がてらそういう事しよる人たくさんおられるんですよ、そういう人の目に止まる制度にものかっこうかとか、やっぱりJAさんの主体的な部会の人足らんとこは農協もちゃんとやれよという事で農協にもやらしましたし、一つだけやればいいて訳じゃないんで、いろんなところでいろんな手を挙げてですね、見てもらう人を増やしたいというのがあって、いろんなところに手を出しているところです、そういうのを拡充さしていこうという意味合いにとってもろたらと思います。

去年やったけど人おらんけん辞めたじゃなくて、それも生かしつつもしかしたらそこも去年のやつは公社に事務局持たしとるんで、公社からいろいろ発信することによって引っ掛かってくることもありますし、何を見よるかバラバラなんで。

村田会長

遊びがてらで、来てもろたんやけど、楽しんでではもろとった、ただ上

手によく使わんで、あんまり使こうたらいいから、嫌がる、専門の子やないけんただ楽しんだいうだけ。

ほか無いですか。

ちょっと書き方がざっくりばらんな形のあれで、いろんな解釈の仕方が出来るんですけど。

小西事務局長

さっき説明で補佐が言ったように、かなりの項目のかなりの細かいところの指摘をして、行政に指摘するという事は自分らで書いて自分らに指摘しよることになるんで、実際これは今回は補佐に作ってもらたんで、かなり細かいいろいろなところに目が届いて、私が書くともうちょっと大雑把な書き方にしかならんのですけど、補佐の性格が出とりました。

うちでもこれはある意味たたき台でどこまで出して、細かく表現するほうがいいのか、もう少し項目をまとめて大きい意味合いで指摘をするほうがいいのか、ちょっとその辺は事務局なりにももう一回考えないといけないかなと思ってるんですけど、今回の内容は皆さんから出してもろた話と、今農政で問題として抱えている部分、議員さんからもいろいろ指摘されて、議会から住民の声として行政にも寄せられた部分もかなり網羅して書いとりますので、なかなか今のタイミングでとらえとくんといけん内容はけっこう今回はめて書いてくれとるとは思います、おおよそこれは必要だから変えないでこのままいってほしいというのであれば、項目の書き方は考えますけど、私も今項目7つあげとるやつはどれを抜いてもなかなかいけない内容じゃないかと思ってるので、その辺は農業委員会が3年に1回の、ほんとは毎年提言出しよるところもあるんですけど、そうなるとこれの中の今年はこちら、今年はこちらというので絞って出せるんですけど、うちは改選期に1回しか出さないんで、その時の農政の全般的な話には触れてもいいかなと思ってるんですけど、おおよ

そこういう形で最終的な調整をさせてもらったらなと思います。

村田会長 それと農業公社、公社関係で、いろいろ今まで研修しては、その後の事が全然ないやないか、補助事業でもそうやけど、前にはトマトがあったんかな。

小西事務局長 トマトはまだ生きとる。

村田会長 生きとったて全然そういうのが最初だけで終わっとるやない、一回したらそれで終わる、今度ならキュウリ、ハウス出来てから2年か3年になって、あっこで研修したのが一人ぐらいおるんやろ、研修で終わりやなしに次のこと、これも補助関係がなるけど

小西事務局長 補助の事はさっき担い手になった人の使い便利をよくするように、町単の事業は就農の時に百万円施設整備にまるっぽ出しますいうのと、認定農業者や新規になったら皆さん使ってもらってる事業は使えるんですけど、〇〇君らも就農して大きく整備する時は、どうしても県の事業を使って、それに町が後押し入れて、JAが主体になってリース事業に置き換えてもらわんといかんので、そういう事は通常の事業にのせよるんですけど、また今度〇〇君らになると若干使い方は違うんですけど、県の事業をうまく使い分けてる話はこちらのほうでも調整してやらしよるので、あそこまで大きくなると町単の部分も使えるし、県の事業にものせとるんで。

村田会長 前に思たことは、隣の西土佐の公社行ったら、枠に入ったものがずらっと並んどるんよ、個人名のどうも卒業やないけんど研修が終わった人

間のあれが、相当の人間がおるんよ、ここはあんまりそういうのは、ほんとに研修いうかなんか公社の従業員の一部にしか見えんのよ、ほんとに研修してあとでやっていきよるんやろかいうかんじにしか見えんから、公社を見直したりいうのも、研修制度、研修が少ないような気がする。

小西事務局長

トマトだけじゃいけんけんキュウリ入れて、ハウス作ってやりだして今まだ九月から一人入っ取るので、もう今は出口もサポートするし、農協さんも自分とこに出してもらわんといけんので、事業の受け皿にもなってもらうので、ぼつぼつそういう点では成果は出はしよるんですけども、メニューを増やすことは割と簡単に出来るんですけど、入ってもらう人を確保するのがなかなか難しく、町内に戻ろうとするときにある程度の年齢なら研修受けたらまだやれるぞという工法をいろんな人がやってくれると、じゃあ一年二年研修して農業やったらまだ六十になってもまだやれらえいうてうまくシフトしてくれるんやったらいいかなと、今後目黒の〇〇君がしっかりしてやりよるんで、あの辺がいいモデルになってくれたらいいなとは思ひよるんですけど、先見に誰かがちゃんとかあやったらうまくいくんかと その人が出ていっとなら見やすいやけど、今んとこそれがなかなか無かったので、難しかったんですが公社も研修としての受け皿はもう一回考え直してやらしよるんで、もうちょっと目に見える成果が出るのは時間かかるかもしれませんが、形になりつつあるんですけど、どうしても研修制度拡充しようとか言うんやったら、担い手の問題とくくりつけて書いとかんと、研修のとこだけじゃなかなか難しいと思うので、ちょっとその辺は実行力があるというか、成果を求めてやってくれよというような話は、自分たちもそういうところ努力はするから言うて書いとかんと、ただの提言になると一方

通行になるんで、そこら辺の書きぶりはあるかもしれませんが、調整はしときたいと思います。

村田会長 ほか無いですか、何でも思いついたことあれば、無いようでしたら今説明されたような形で出来上がったものを、これで終わり。

小西事務局長 そうですね。

10月で最終段階でしょうというものを見せて、11月に出そうと思ってるんですけど、ちょうど11月が町長の任期がどっかで挟まってきて選挙があるので、選挙があるのか、無いのか任期がどこで続くのかどうかというのはちょっと見させてもらって、次の任期を担う人に渡さないで、ギリギリ前の人に渡してもいかなので、11月に渡せる状態にはしといて、町長選の動向を見ながら、いつ会長副会長から提言をしてもらうかというのは考えさして頂いたら、うまくいったら来月見て、最終調整11月にもう一回やって提出は可能かもしれません。

村田会長 来月。

小西事務局長 大体は。

村田会長 これ読んでもろて、もう一つ何か思ったら次の会に間に合うかもわかりません。

提言書についてはよろしいでしょうか。

ほか、その他で。

音地主査 その他の報告事項は特にないんですけれども、次回の委員会の開催日

だけご報告致したいと思います、今の予定では10月の11日の金曜日で、
時間は13時30分からで庁舎の2階の議場で行いたいと思います。

また日程調整のほどよろしくお願ひします。

報告事項は以上になります。

村田会長

委員さんのほうから何かありませんか、報告事項とか、無いようでしたら終わりたいと思いますが。

矢野副会長

今日はどうもお疲れ様でした、先日農地パトロールしていろいろと問題があるなと思って帰ってきたんですけど、今の提言書を見ましたらそういう問題についてもきちっとまとめていただいて、この提言書をまとめて出して、それが一つ一つ実現していくとまた良くなると思いました、今日は本当にお疲れ様でした。